

CANTO ANGELICO
Fumio Takano

ガト・ア ン ゲ リ コ

高野史緒

講談社
文庫





講談社文庫

常州大学図書館
蔵・書シ章コ

高野史緒

講談社

|著者| 高野史緒 1966年茨城県生まれ。茨城大学卒業。お茶の水女子大学人文科学研究科修士課程修了。1995年、第6回日本ファンタジーノベル大賞最終候補作『ムジカ・マキーナ』(新潮社)でデビュー。著書に『アイオーン』『赤い星』(ともに早川書房)など。2012年『カラマーゾフの妹』(講談社)で第58回江戸川乱歩賞を受賞。近著に『ヴェネツィアの恋人』(河出書房新社)。

カント・アンジェリコ

たかの ふみお
高野史緒

© Fumio Takano 2013

2013年3月15日第1刷発行

発行者——鈴木 哲

発行所——株式会社 講談社

東京都文京区音羽2-12-21 〒112-8001

電話 出版部 (03) 5395-3510

販売部 (03) 5395-5817

業務部 (03) 5395-3615

Printed in Japan



講談社文庫

定価はカバーに
表示してあります

デザイン——菊地信義

製版——株式会社精興社

印刷——株式会社精興社

製本——株式会社千曲堂

落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社業務部あてにお送りください。送料は小社負担にてお取替えます。なお、この本の内容についてのお問い合わせは文庫出版部あてにお願いいたします。

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。

ISBN978-4-06-277494-9

【目次】

序曲と前口上

9

第一幕 パリとルーヴル宮

17

プロローグ

19

第一場 ルーヴル宮のカフェM亭

25

第二場 R街の高級ホテルの一室

42

第三場 ミケーレのエリア

55

ルーヴル宮のモンタンジュ劇場

78

第四場

電話回線上、M亭その他

第五場

ミケーレのエリア

108

第六場 パリの繁華街 モンタンジュ劇場 130

第七場 モンタンジュ劇場 147

第八場 ミケレーのエリア 167

第九場 マリエッタの寝室 M亭 178

間奏曲 193

第二幕 ルーヴル宮 201

第一場 モンタンジュ劇場から
 コルサバードの中庭、方形宮へ 203

第二場 方形宮の一隅 223

 方形宮の中庭から

第三場 モンタンジュ劇場の舞台裏へ 226

第四場	モンタンジュ劇場から楽屋、 方形宮諸アカデミーの部屋へ	241
-----	--------------------------------	-----

第五場	王室蒐集品収蔵室	260
-----	----------	-----

第六場	方形宮の小ギヤルリー	270
-----	------------	-----

第七場	大ギヤルリー西端のフロール館	299
-----	----------------	-----

第八場	大ギヤルリーから 再びモンタンジュ劇場へ	314
-----	-------------------------	-----

第九場	モンタンジュ劇場	340
-----	----------	-----

退場と閉幕		376
-------	--	-----

解説 小谷真理		390
---------	--	-----



講談社文庫

カント・アンジェリコ

高野史緒

講談社

【目次】

序曲と前口上

9

第一幕 パリとルーヴル宮

17

プロローグ 19

第一場 ルーヴル宮のカフェM亭 25

第二場 R街の高級ホテルの一室 42

第三場 ミケーレのアリア 55

ルーヴル宮のモンタンジュ劇場

第四場 電話回線上、M亭その他 78

第五場 ミケーレのアリア 108

第六場 パリの繁華街 モンタンジュ劇場 130

第七場 モンタンジュ劇場 147

第八場 ミケーレのアリア 167

第九場 マリエッタの寝室 M亭 178

間奏曲 193

第二幕 ルーヴル宮 201

第一場 モンタンジュ劇場から
 コルサバードの中庭、方形宮へ 203

第二場 方形宮の一隅 223

第三場 方形宮の中庭から
 モンタンジュ劇場の舞台裏へ 226

第四場	モンタンジュ劇場から楽屋、 方形宮諸アカデミーの部屋へ	241
-----	--------------------------------	-----

第五場	王室蒐集品収蔵室	260
-----	----------	-----

第六場	方形宮の小ギヤルリー	270
-----	------------	-----

第七場	大ギヤルリー西端のフロール館	299
-----	----------------	-----

第八場	大ギヤルリーから 再びモンタンジュ劇場へ	314
-----	-------------------------	-----

第九場	モンタンジュ劇場	340
-----	----------	-----

退場と閉幕		376
-------	--	-----

解説 小谷真理		390
---------	--	-----

カント・アンジェリコ

もし音楽が愛の糧なら 歌ってください 私を飲みで満たすまで
聴き入る私の魂は 飽くなき歓喜へと誘われ
あなたの瞳 あなたの物腰 あなたの言葉が
あなたの何もかもすべてが 音楽であると証しする

歓喜はあまりに激しく 襲わんばかりに耳目を奪い
五感のすべてが満たされる でも

その歓喜の源は ただ音楽だけ

私はあなたの魅力で死んでしまうでしょう

あなたがその腕に 私を救ってくれないのなら

ヘンリー・パーセル 歌曲集『コメス・アモリスIV』より

高野史緒 私訳

序曲と前口上

——カント・アンジェリコ
天使の歌！

彼らの歌を聴いた時、あなたは思わずそう叫ぶだろう。

彼ら、つまり少年ソプラノの声を保つために変声前に睾丸を切除した男性の歌手を《去勢歌手^{カストラート}》と呼ぶ。しかし、ある大物の言い方にならえば「あなたの技術面での知識がどの程度なのか分からないので」あまり専門的にならない程度に説明しよう。つまり、こういうことである。

ただでさえ選り抜きの聖歌隊の中から、とりわけ美声の少年が選ばれる。要は声と歌、そしてある種の天啓だ。天から名指しで選ばれた才能。神の使いの美声。あなたの予想に反し、容姿など考慮している余地はない。もちろん身分の区別など問題外だ。幼児の混沌にほの見える大人の才能、その一瞬を捕らえたら、彼が天使から男への境界を越える前に、この天に選ばれた少年を天使の領分にとどめておかなければな

らない。

そう、時期は早ければ早いほうがいい。声変わりが近づいてからでは遅すぎる。どんなに遅くても十二歳までには、できれば七歳で決めてしまふのがいい。それはもちろん、例の器官を一瞬たりとも男にさせないためであり、また傷口は小さければ小さいほど安全だからだ。手術はきわめて簡単、少なくともその手順自体は、これ以上ないほど簡単で単純なものである。少し習えばあなたにだってできるかもしれない。

陰囊を切除する、ただそれだけだ。驚くことはない。痛みを少なくする方法は、阿片と鋭い手術刀以外にないが。施術された者はあまりの痛みに気を失い、そのうちの幾人かはそのまま死に至る。あなたが話を聞いただけで気を失いかけたのも無理はあるまい。あなたはまた、そんなことをされるくらいなら死んだほうがましと思うだろう。

だが、その一瞬の苦痛と引き替えに得るものがどれだけ大きいことか、あなたに想像できるだろうか？ 聖歌隊の少年たちはみな、あなたには信じられないほど貧しい地方の出であり、金のために親から売られた間引き子だ。家族のほとんどが四十歳まで生きられないほど貧しい家の親たちは、年端もいかない息子が歌うことと富とを同義に考える。あなただって南イタリアの石灰でできた山麓にでも生まれれば、きつと

同じように考えるはずだ。あなたは自分の子供の替わりに、その土地では領主でさえめったに手にできないほど巨大で分厚い金貨を手にするが、しかし、売られた子供がその後の生涯に手にする富の本当の大きさをあなたが知ることは決してないだろう。

あなたの息子はナポリにある四つの音楽院（その通り、百年ほど前にはただの孤児院だったところだ）で、音楽ばかりではなく歴史や文学、作法の念入りの教育を受ける。そして歌手として一人前になる頃には、彼は高位聖職者の収入で王族の暮しをし、熱烈な賛美をあびながら金色の宮廷で歌うのだ。その間、あなたや他の兄弟姉妹はすでに飢えのため死んでいるか、あるいはどうにか生きていたにしても、痩せ衰えた小作農地の上にシラミだらけで這いつくばって萎^{しな}びた根っこを掘り返しているかのどちらかである。

その運命を分けるのが、あの小さな手術だ。運が悪ければ死に至り、あるいは傷口の化膿が悪化し、後半部分の省略ですんだはずのものが全面撤去になりかねない。しかし逆に運が良ければ、妊娠の危険のないまま事におよぶという、言わば理想の恋人になるかもしれない。彼らが楽しんだあまりに奔放な恋愛遊戯に関する報告は非常に多いのである。しかも、この貧農の間引き子の歌に魅了されてその足元に身を投げ出すのは、みなやんごとなき貴族の男女（そう、もちろん男も含まれる）ばかりなのだ。